

第4回大田区MICE推進会議 議事要旨

日時：令和2（2020）年1月16日（木）14：30～16：30

場所：日本工学院専門学校3号館20階第1会議室

委員出席者：玉井会長、荻原委員、加藤委員、児玉委員、小橋委員、濱田委員、細島委員、宮澤委員、横内委員 ※ 五十音順（会長除く）

オブザーバー出席者：鈴木大田観光協会事務局長

青木大田区産業振興協会事務局長代理出席 斉藤氏

1. 開会

事務局から、開会が宣言された。

2. 前回の討議内容について

資料1「令和元年度 第3回大田区MICE推進会議議事要旨（案）」に基づいて、前回の討議内容について事務局から説明が行われた。

発言内容等について意見がある場合は、1月21日（火）までに事務局に連絡するよう、会長から依頼があった。

（会長）

- ・ 本日の午前中に、令和元年度東京都MICE連携推進協議会があり、新たに「I」や「E」の分野に注力したいとの議論や、SDGsをMICEに取り込み、世界との競争に勝ちたいとの議論があった。
- ・ 経済性を追求するだけでなく、地域社会にとって良いMICEを考える潮流が出てきたのではないかと。

3. （仮称）大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方（案）について

資料2「（仮称）大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方（案）」に基づき、事務局から説明が行われた。

（荻原委員）

- ・ 「人材の育成・登用」はとても重要だが、当面の取組が記載されていない。中長期的な取組からではなく、当面の取組としても何らかの手を打つ必要があると考えている。
- ・ 具体的には、大田区の職員やボランティアなどを、MICE開催に関するアドバイザースタッフとして養成する取組が考えられる。地域住民を活用すれば、別の施策である「地域における気運醸成」にも良い影響を与えることができる。

（会長）

- ・ 人材育成は、MICE推進体制に密接に関わる、非常に重要なポイントであるが、事務局はどのように考えているか。

（事務局）

- ・ 現状では、MICEそのものや、地域振興に波及する効果についての理解が区民に認知されていないため、まずは区民に対してMICEを広く周知してから、人

材の募集・育成に取り組みたいと考えている。

(会長)

- ・ 令和元年度東京都MICE連携推進協議会では、大学や各種学校にMICEに知見を持つ人材を積極的に派遣して、MICEが地域にもたらす効果をPRする取組が必要だとの意見が出た。
- ・ 本会議の委員は各々のステークホルダーの立場から、MICEの持つ意味を企業内に広める他、観光を扱う大学ではMICEの話を学生に聞かせたいというニーズがあるので、そのような機会に若者にアプローチをして欲しい。
- ・ 当面、MICEの効果を大田区が計測して公表していくにあたり、ステークホルダーに対する指導的立場を担うセクションが必要だと考えているが、事務局はどのように考えるか。

(事務局)

- ・ 現在MICEを担当している観光課では、十分な情報発信は行えていない。MICEに対する理解が区内で広まっていない現状では、まずは先頭に立って情報を発信する部門が必要だと考える。

(会長)

- ・ 是非、現在区が持つ部門を発展させて欲しい。
- ・ 取組を羅列するというよりも、経年で比較できるデータを収集した上で、時系列で経済波及効果への結びつきが見える広報資料を作成すれば、区民の理解が得られやすくなる。

(児玉委員)

- ・ 新たに「羽田空港を活用した国際・大規模MICE開催」を柱として位置付けた。これに関連して、大規模国際会議の誘致が将来的な取組に位置付けられているが、羽田空港跡地第1ゾーンは今夏にまちびらきとなる。
- ・ 今回の戦略案では大田区のMICE誘致組織は羽田空港跡地第1ゾーンでのMICE開催には当面携わらないというように受け取れるが、それで良いのか。

(事務局)

- ・ 羽田空港跡地第1ゾーンでは、施設の整備及びMICEを誘致する専門の業者が入り、民間主導でのMICE誘致が計画されている。区としても連携できれば良いと考えている。

(会長)

- ・ 大田区のMICE戦略について昨年度から議論してきたが、およそまとまってきたと思う。細かな表現なども含めて事務局で最終検討していただき、会議の結論としていただきたい。

4. 令和2年度のMICEの方向性について

資料3「今後のMICEの方向性～令和二年度～」に基づき、令和二年度の方向性及びMICE推進体制について、事務局から説明が行われた。

(会長)

- ・ 大田区HQ(ヘッドクォーター)は、(仮称)大田区MICEビューローと並行して立ち上げるのか、それとも(仮称)大田区MICEビューローを立ち上げた後に大田区HQを立ち上げるのか。
- ・ (仮称)大田区MICEビューローと大田区HQはどのように役割を分担するのか。

(事務局)

- ・ 4月から大田区MICE誘致準備会を開催し、(仮称)大田区MICEビューローと大田区HQの役割分担や大田区HQを委託する事業者の選定方法等、今後の体制について検討した上で、その役割分担に則って、6月から(仮称)大田区MICEビューロー及び大田区HQを動かしたいと考えている。

(会長)

- ・ (仮称)大田区MICEビューローは第3セクターになるのか。

(事務局)

- ・ 第3セクターではなく、本年度の推進会議を踏まえて実務に携わる組織に発展させるイメージを持っている。

(会長)

- ・ クライアントやユーザーからの問い合わせがあった際に、(仮称)大田区MICEビューローがMICE関連施設の斡旋を行ったり、手続の方法を教えたりするのか。

(事務局)

- ・ そのような実務については、(仮称)大田区MICEビューローではなく、HQが担うことを想定している。

(荻原委員)

- ・ 大田区の組織として(仮称)大田区MICEビューローが立ち上がり、そこで委託業者を選定し、実働は大田区HQが行うと理解した。
- ・ 模式図で、大田区から中小規模MICEに出ている矢印は何を示しているのか。「助成金、各種手配等、受け入れ相談」と例示されている「開催支援」の役割を担うと解釈した場合、大田区HQの動きはかなり制約を受ける。
- ・ 民間の立場から見ると、(仮称)大田区MICEビューローを大田区が握り、大田区HQの自主性を担保しながらコントロールする仕組みが望ましい。

(事務局)

- ・ 大田区が行政の立場からMICEに対し何らかの支援を行えば、MICEに取り組みやすくなると想定した矢印であった。
- ・ 一方で大田区が関わると、委託事業者にとってはやりにくい部分もあるので、模式図における表現は再度検討したい。

(細島委員)

- ・ 大田区HQと(仮称)大田区MICEビューローの役割分担について、より明確に記載していただきたい。

(萩原委員)

- ・ 加えて、大田区の役割についても明確化しておいていただきたい。

(加藤委員)

- ・ 大田区HQと(仮称)大田区MICEビューローの役割分担は資料から読み取りにくい。資料上は、全てのMICEへの支援を業務委託するのではなく、大田区HQは大規模MICEを扱い、(仮称)大田区MICEビューローは中小規模を扱うように見える。
- ・ 「(仮称)大田区MICEビューロー(令和2年6月～)・区の役割」に「パッケージプランの作成(会場、宿泊、飲食等の組み合わせ)」、「商談会出展、主催者へのダイレクトセールス」との記載がある一方で、「業務委託内容」にも「会場、宿泊施設、ケータリング等手配」、「企業へのダイレクトセールス」の記載があり、業務が重複している箇所は整理が必要だろう。

(事務局)

- ・ (仮称)大田区MICEビューローは、取組の方向性をコントロールする立場として考えている。

(会長)

- ・ 中小規模MICEと大規模MICEの両者に対し大田区HQから矢印が出ており、中小規模MICEには(仮称)大田区MICEビューローからも矢印が出ている。この模式図だと、(仮称)大田区MICEビューローは地域に密着した小規模MICEの開催支援に取り組むと理解されるので、修正した方がいいだろう。
- ・ (仮称)大田区MICEビューローは、大田区の考えに基づき、MICEの誘致に関しての方向性を検討するという解釈で問題ないか。

(事務局)

- ・ 現在は大田区にはMICEの知見が不足しているので、(仮称)大田区MICEビューローの力を借りて、望ましい誘致の方向性・方策について示していく。
- ・ その方針をふまえ、大田区HQの委託事業者と十分な打合せを行った上で、MICEに取り組みたい。

(会長)

- ・ (仮称)大田区MICEビューローには外部からの人材が入るのか。

(事務局)

- ・ MICEの実務経験がある、あるいは知見を持つ外部有識者に参加してもらいたい。

(会長)

- ・ 来年度以降の大田区におけるMICE推進体制について、各委員はどのように関わっていきたく述べていただきたい。

(宮澤委員)

- ・ MICEへ取り組む施設も出てくると思われるので、協力的なホテルと一緒に取り組めると望ましい。

(児玉委員)

- ・ 当社の立場としては、特定の事業者ではなく、区全体が賑わう仕組みづくりを手伝いたい。

(大田観光協会)

- ・ 業務委託の形式をとる場合、外部からは、区と一体化しているように見える。一方で、補助金を支出し、団体を立ち上げるのであれば、区の意向に沿いつつ、区と分離しているに見える。今後、体制が具体化されると良い。
- ・ 観光協会としては、区民が理解できるMICEとなることが望ましい。

(大田区産業振興協会)

- ・ 大田区産業プラザP i Oでは既に多くのMICEが開催されており、大田区産業振興協会がその支援を行っている。そういったなかで、大田区HQとの関わり方について、理解しきれていない部分がある。
- ・ 大田区HQは、区からの業務委託によって指導力を発揮するだろうが、大田区との関係もなければ、MICEを行えないと考えている。

(濱田委員)

- ・ これまでの議論が具体的な形になると良い。
- ・ MICEを運営する企業の立場からすると、東京2020大会の開催に前後して、大型・中型のMICEが活況を呈しているが、大田区HQの立ち上げが6月以降となっており、間に合わないのは残念だ。
- ・ 大田区MICE誘致準備会は、東京2020大会以降の国内MICEの取り組み方を検討する大切な準備期間になるので、当社としてもできることがあれば手伝いたい。

(加藤委員)

- ・ (仮称)大田区MICEビューローと大田区HQのもとでMICEが誘致される流れに、まだ理解が追いついていない。

(横内委員)

- ・ (仮称)大田区MICEビューローはマーケティングやプランニングをする組織で、大田区HQはそのプランに応じて実務を行う組織だと捉えている。
- ・ 当社はメディア企業であるので、大田区がMICEに取り組む理由や算出された経済波及効果を区民に対して発信するという形でMICEの支援を行っていきたい。

(会長)

- ・ それでは、次回の推進会議では来年度のM I C E 誘致体制について確認することとしたい。
- ・ 次回の推進会議までに、事務局は、大田区と(仮称)大田区M I C E ビューロー、大田区H Q の各主体における役割分担とロードマップについて、もう一度整理してほしい。
- ・ 今回の会議のまとめになるが、中長期的にM I C E に関わることのできる人材をM I C E 推進体制の中に配置することが望ましい。
- ・ 地域社会にM I C E を理解してもらうためにはM I C E のメリットを示し、数値的根拠を継続的に発信すること、M I C E に関わるステークホルダーに利益を再配分する施策を考えることも重要である。
- ・ S D G s も重要な観点であるが、懸案として、問題点やその対策が明らかになったとしても、短期的な利害の食い違いを意識した各ステークホルダーが、データの供与を行わなかったり、取組に反対したりする問題がある。
- ・ 住民に利益が還元されるプログラムを作成し、中長期的なM I C E 誘致にかかるメリットを示すことで、短期的には利害の一致しないステークホルダーを取りまとめることができるM I C E 誘致体制にしなければならない。

(事務局)

- ・ 本日、おおた工業フェアのチラシをお配りしたが、その件について、大田区産業振興協会から説明をいただく。

(大田区産業振興協会)

- ・ おおた工業フェアは2日間に渡って行われる大規模なイベントであり、昨年は団体来場者数で3,138人の来場実績がある。みなさまにも、ぜひ、来場していただきたい。

(事務局)

- ・ 参考資料として「大田区M I C E 開催支援助成金」制度についてのチラシを配布した。今年度の予算残があるので、3月末までに開催されるM I C E があれば紹介していただきたい。また、この制度は来年度以降も実施する予定であるので、周知していただきたい。
- ・ 2月26日に第2回大田区観光推進連絡協議会を実施するので、参加可能であればお願いしたい。
- ・ 次回、第5回大田区M I C E 推進会議は、2月27日(木)14時30分から開催する予定。出席をいただきたい。

5. 閉会

事務局から事務連絡が行われ、閉会が宣言された。

閉会后、日本工学院専門学校内のホテルコース実習室の視察が行われた。

以上